コンテンツ側からみたICANN86の報告

2026年7月31日

JPMAC（出版５社マンガ海賊版サイト対策会議）
弁護士・弁理士　丸田憲和

今日の内容

1　はじめに

2　DNS Abuse - Associated Domain Check（PDP1）

3　RDRS・SSAD

4　AIとDNS Abuse

5　その他

1　はじめに

- JPMAC（出版５社マンガ海賊版サイト対策会議）はIPCのメンバー
- ICANN86にて視聴したいくつかのセッションのうち、コンテンツ側の視点で注目したポイントをピックアップしてご報告する
- 本発表は発表者の個人の見解に基づく

2　DNS Abuse - Associated Domain Check（PDP1）

- 複数のレジストラ間におけるADCは対象外
- 「フィッシングの特定にコンテンツの分析が必要な場合、この必要なコンテンツの審査が許可されている。他方、他の形態のコンテンツ悪用は、ICANNの使命及び範囲を厳格に逸脱していると見做されるのはなぜか」との質問に対し、これは本PDPのスコープ外である、別途問題提起されたいと回答するにとどめた

セッション: DNS Abuse Mitigation PDP 1 Update（Prep Week）

2　DNS Abuse - Associated Domain Check（PDP1）

Interisleの報告

- 悪意ある行為者が2025年に推定1,680万件のgTLDドメインを取得（全新規登録の約20%）
- 新規登録の5件に1件がフィッシング・マルウェア・詐欺等に悪用
- Abuseは特定の事業者に非常に集中
- 大規模なAbuseが存在する理由はインセンティブ構造：gTLD市場の競争激化で価格・利益率が低下。一部の事業者にとって大量ドメインの常連購入者であるサイバー犯罪者への対応が経済的に合理的
- 不正は回避可能：一部事業者は適正成長を維持している。ADCが有効な緩和策となりうる

セッション： GAC Discussion on DNS Abuse Mitigation

2　DNS Abuse - Associated Domain Check（PDP1）

（所感）

コンテンツに関する問題は（現時点で）対象外であるとしても、「ADCが有効な緩和策となりうる」との見解に期待

3　RDRS・SSAD

- 15日検証に関し、Namecheapの報告
- 1年間（2025/4/26～2026/4/26）のサンプル期間（535万0455ドメイン）を調査：
- DNS Abuse に使用されるドメインは古いドメインが多い（DNS Abuse に使用されたドメインの74.57%が登録から停止まで15日を超える）
- メール認証の失敗で停止されたドメインの84.62%は Abuseの関与なし
- Abuse の関与かつ認証失敗で停止されたドメインは約1.86%
- メール認証のタイミング（登録前・15日以内・15日後）で Abuse 発生率に統計的有意差なし（1.1～1.6%）

セッション: GAC Discussion on Registration Data Issues and Informational Session on Accuracy of Registration Data

3　RDRS・SSAD

- これに対し、以下の指摘がなされた
- INFERMAL Projectによる中立性の高い研究結果によれば、適時な検証で不正行為を最大60%削減できるとされる
- デジタル経済への信頼構築による登録数増加がなされれば、それによる収益増は対策のコスト増を上回る

セッション: GAC Discussion on Registration Data Issues and Informational Session on Accuracy of Registration Data

3　RDRS・SSAD

（所感）

①適切なデータ（調査・検証結果）に基づく議論は重要

②日本のデータは提出できる？

4　AIとDNS Abuse

AIにより変化が生じつつある
　攻撃の生成・展開・スケールの方法
　攻撃能力の「底上げ（uplift）」（専門知識が不要になる）
　犯罪スキームの各ステップが自動化可能に
　防御にも利用可能

セッション: Current and Coming Impact of Artificial Intelligence on DNS Abuse

4　AIとDNS Abuse

裁判所命令によるドメイン差押えは平均30日かかるが、運営者がインフラを取得・再取得するのはそれよりはるかに早い

現時点で大きな加速は確認されておらず、AIに起因する変化の予測や観測も困難

セッション: Current and Coming Impact of Artificial Intelligence on DNS Abuse

4　AIとDNS Abuse

現行のPDP2（バルクドメイン登録のAPIアクセス）は引き続き有効な方向性

セッション: Current and Coming Impact of Artificial Intelligence on DNS Abuse

4　AIとDNS Abuse

（所感）

①AIによる権利侵害は脅威

②防御にAIを用いるといっても、現在は「裁判所による命令」を求められることが少なくない→攻撃側に圧倒的に有利

③法的措置ではなく、事業者による任意の対応の重要性が大きくなる

5　その他

- ドメインの価格とDNS Abuse抑止の関係
- 無料や超低価格（1ドル前後）はDNS Abuseを増加させる傾向があるが、10～15ドルレベルであれば大差ない
- 収益性の高い犯罪との関係では抑止効果は低下

セッション: ccNSO- ccTLDs and Registrars Tackling DNS Abuse

5　その他

- マルチステークホルダー・グローバルガバナンス比較研究の発表
- ICANNでは議論は多いが成果物の実施率が課題（ATRTによるレビューが数多く行われ、山のような提言が寄せられるが、実行には至らない）
- 対面参加できるのはリソースを持つ者に限られており、参加機会の不平等が生じている（Zoom参加では対面参加のような効果は期待できない）

セッション: GNSO- IPC Membership Work Session

5　その他

（所感）

①収益性の高い犯罪との関係では身元秘匿の可能性が大きな要因となるのでは

②機会の不平等解消のための手段をさらに充実させるべき